

香筵玩具

79
1555 95

79
1555

門 9
1555



日靜重簾邃
風清一縷長



香
道
玩
具

古
新
菴
藏

小
香
齋
玉
泉
文
庫

對香爐



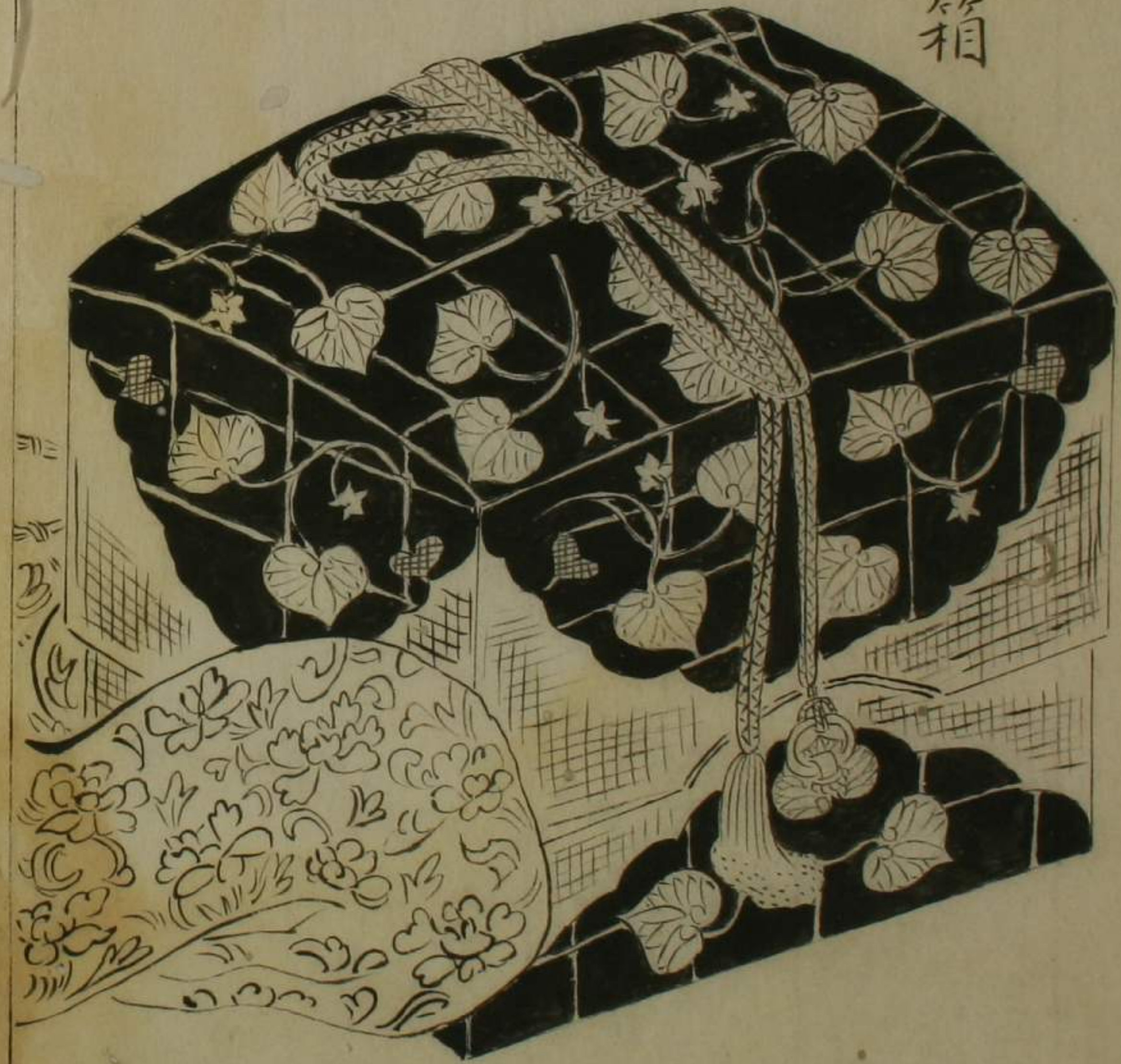
香盆

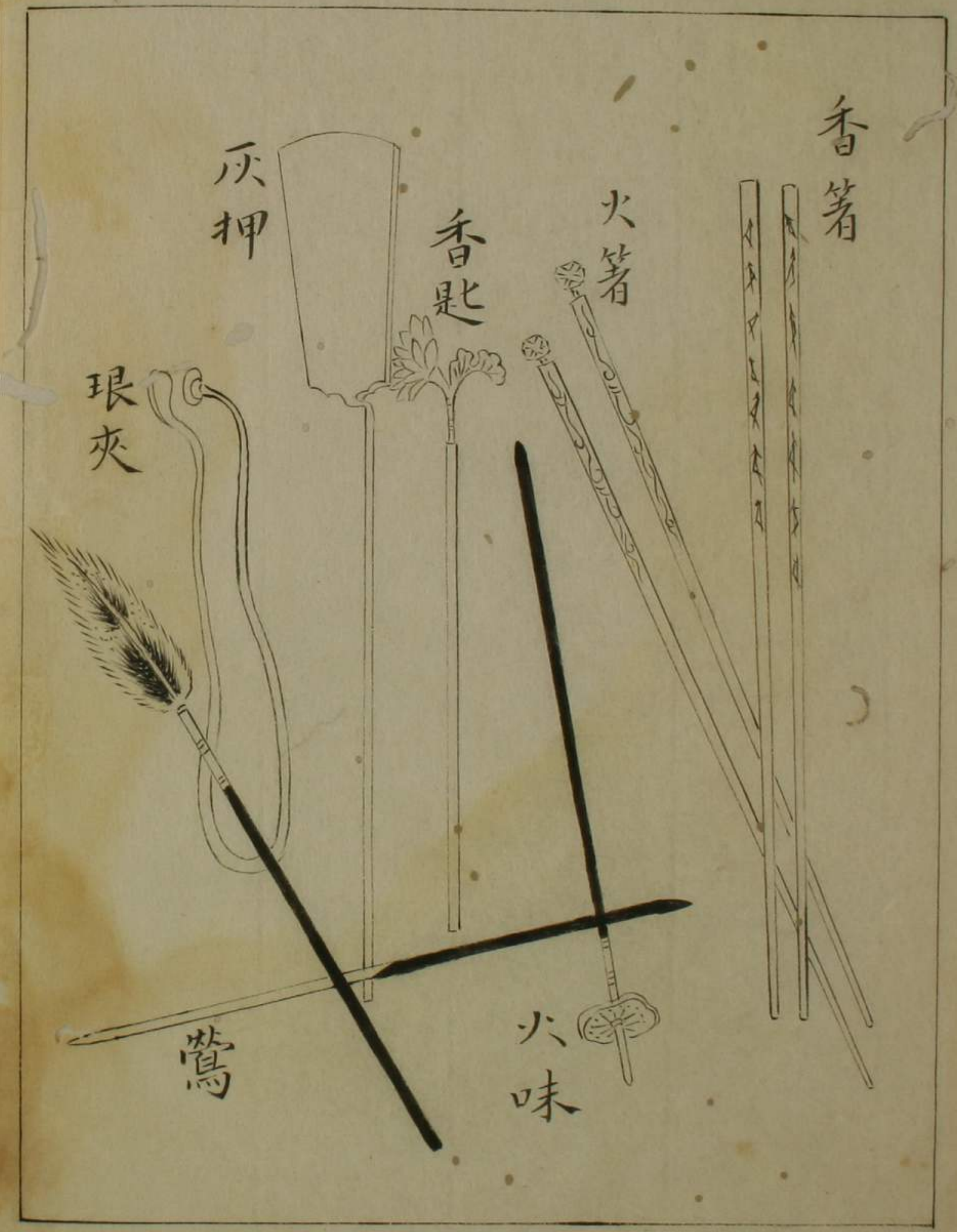
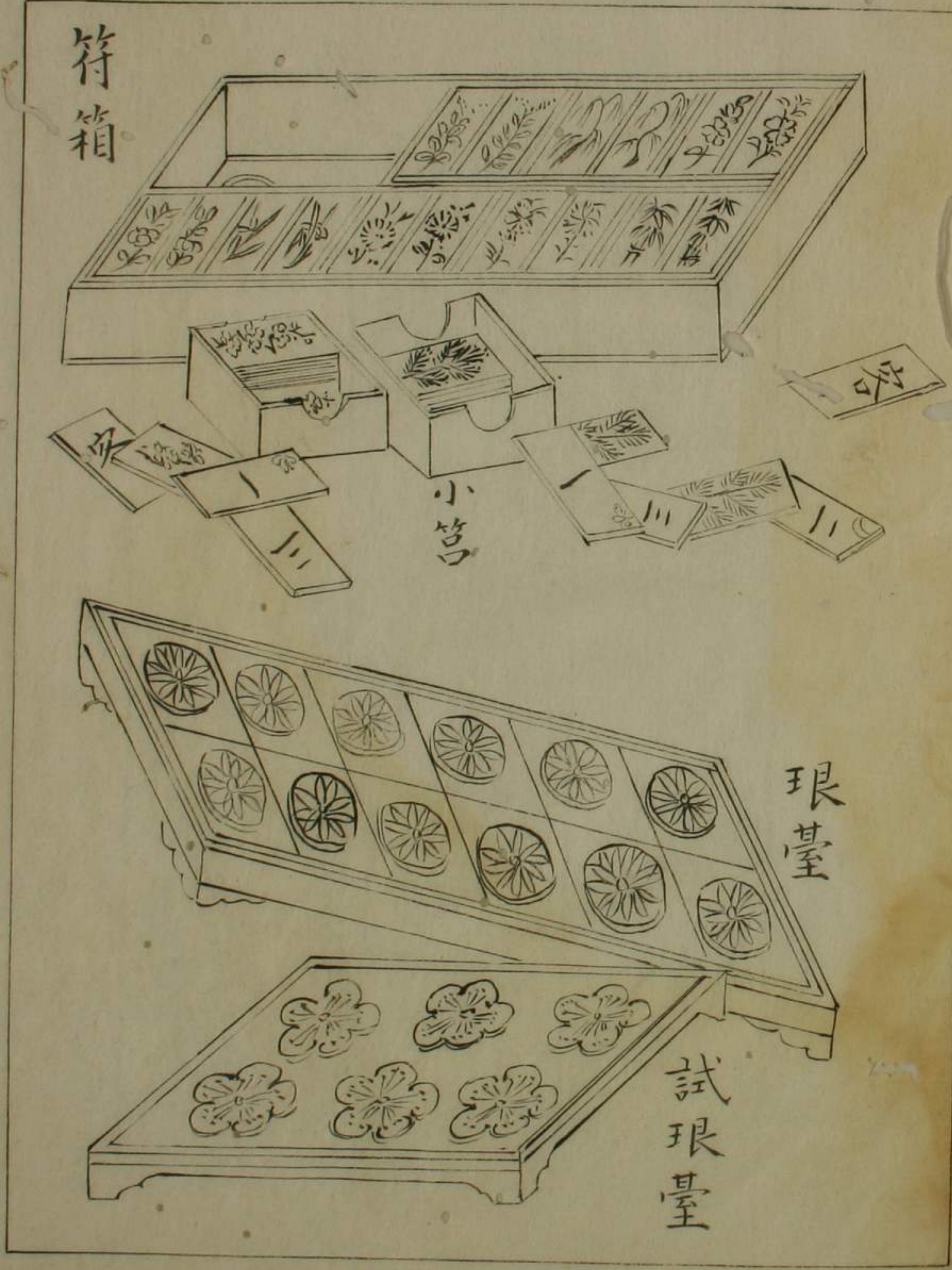
香箸
立箸



同網

十種香箱

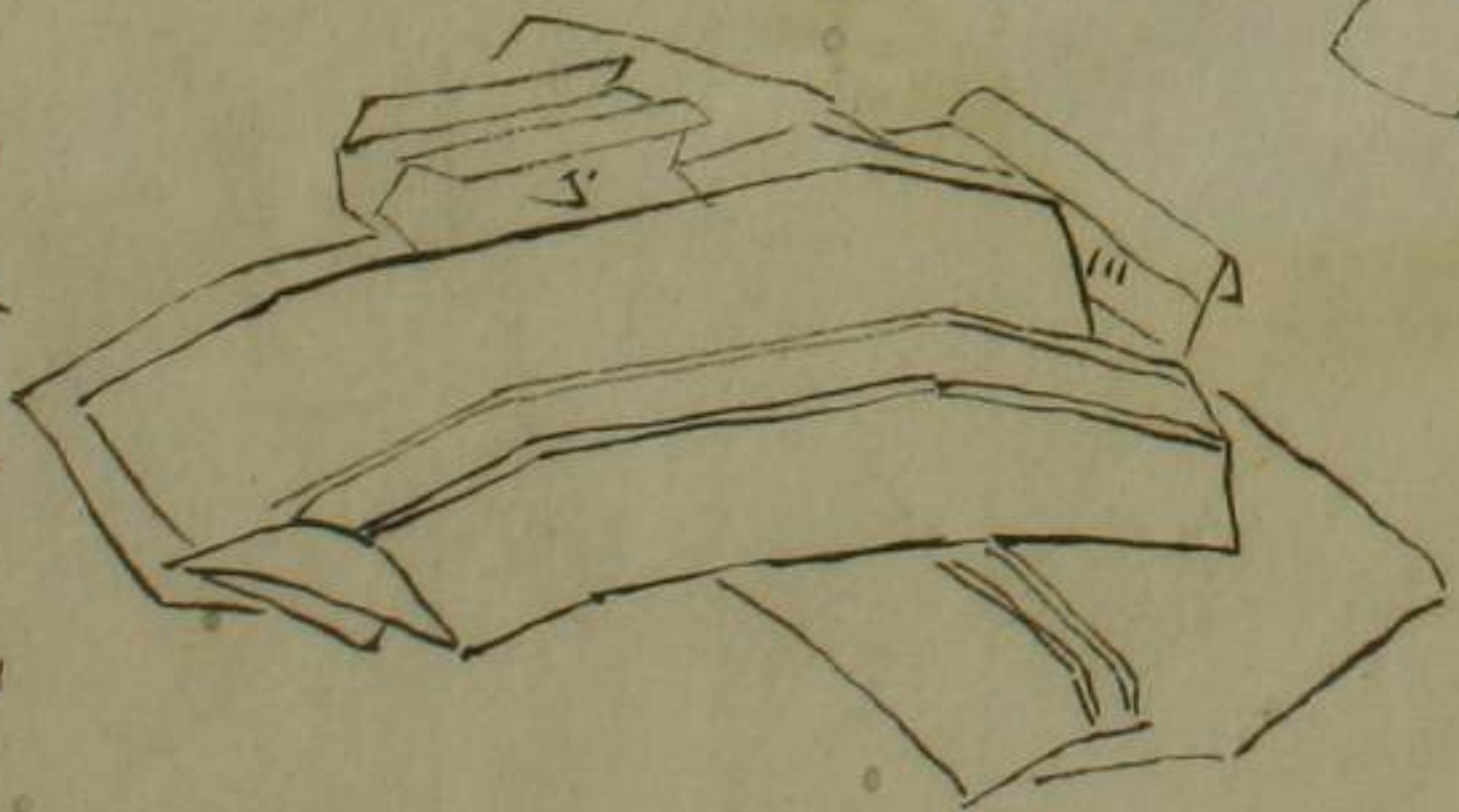




香外包

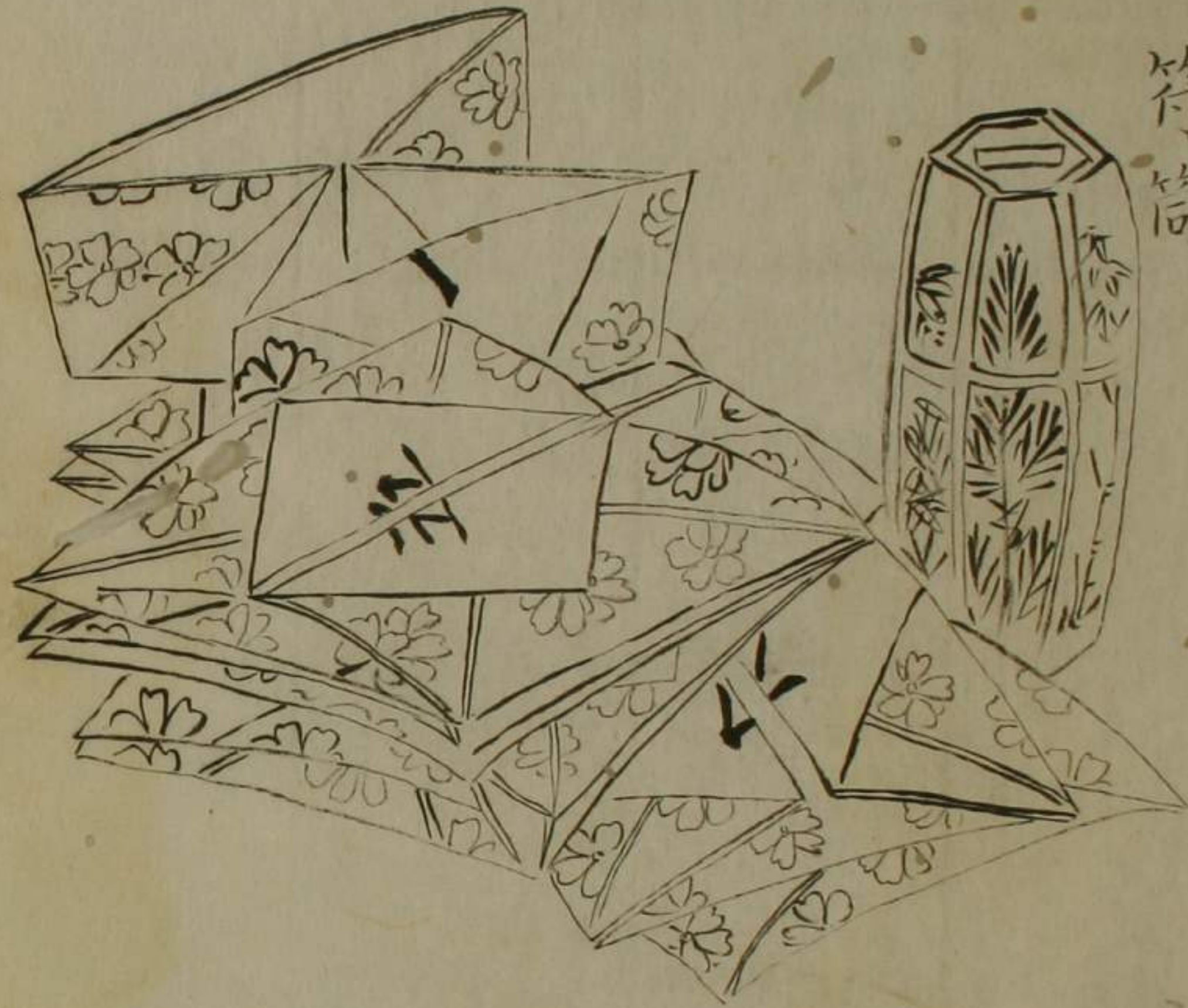


本香包



試香包

折居十折

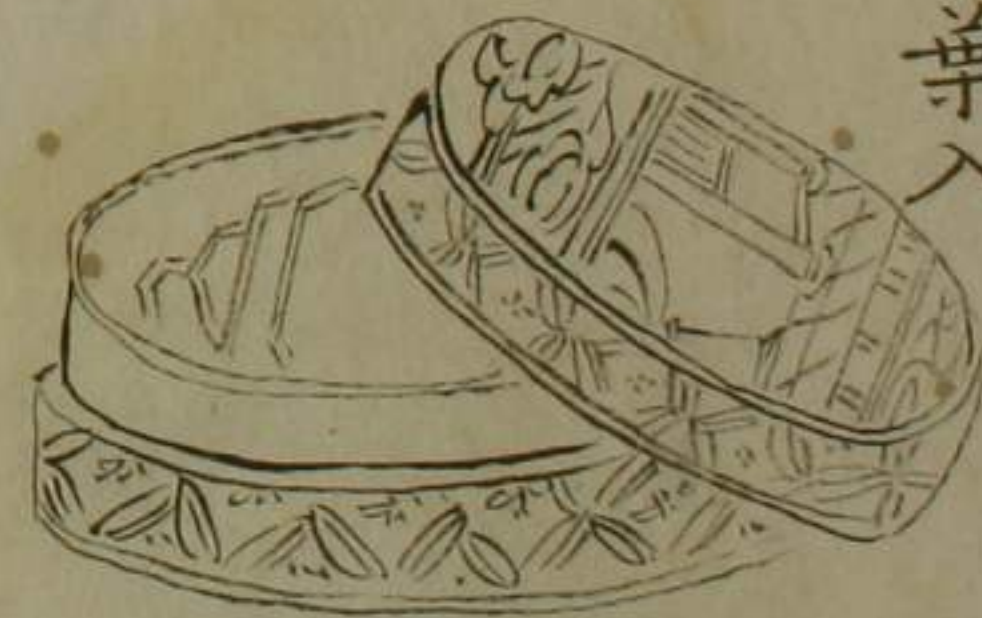


符筒

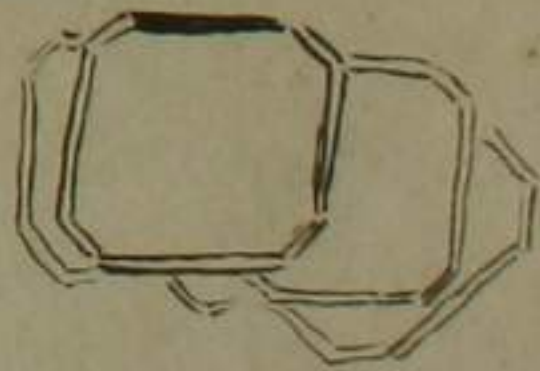
炷燼入

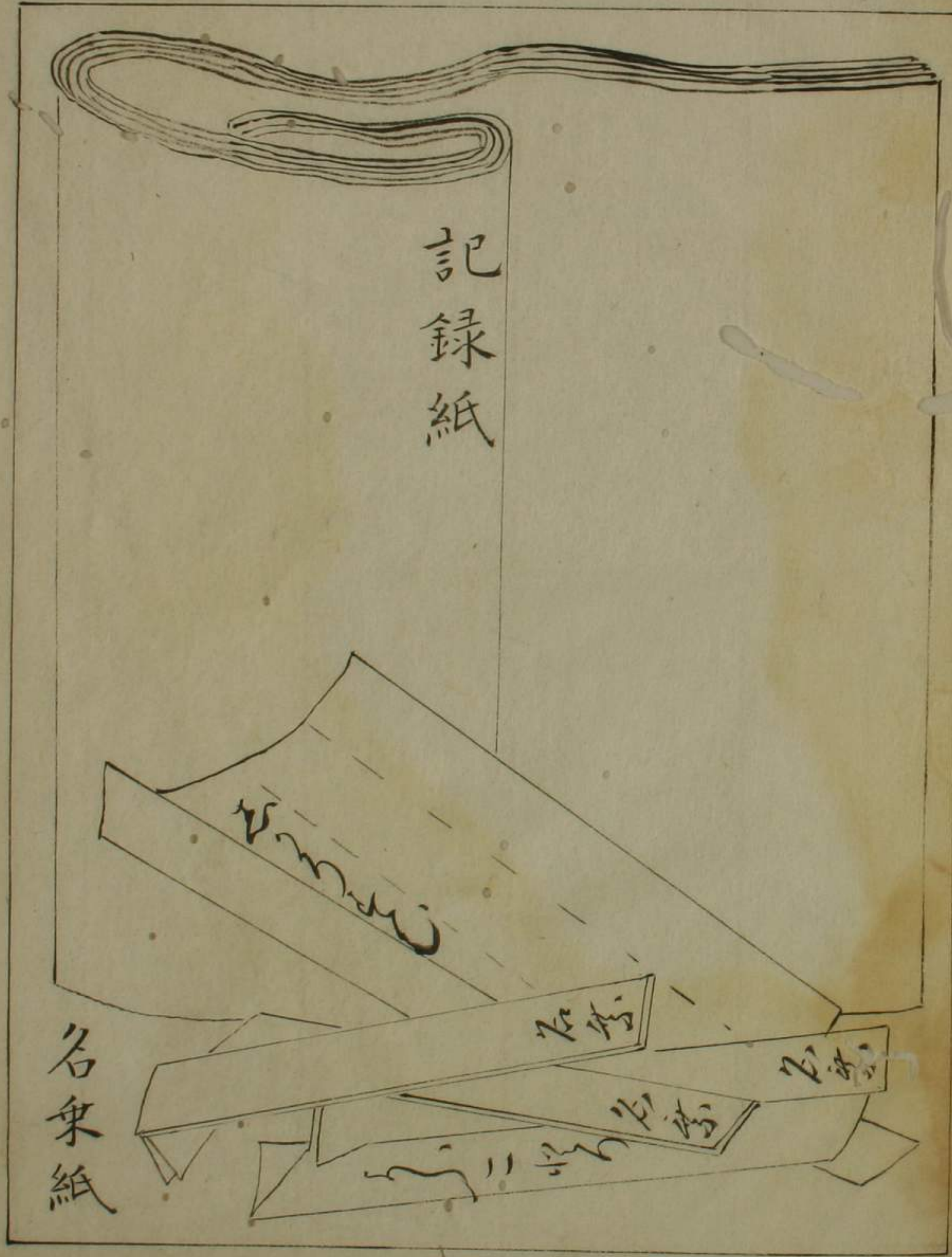


琅葉入

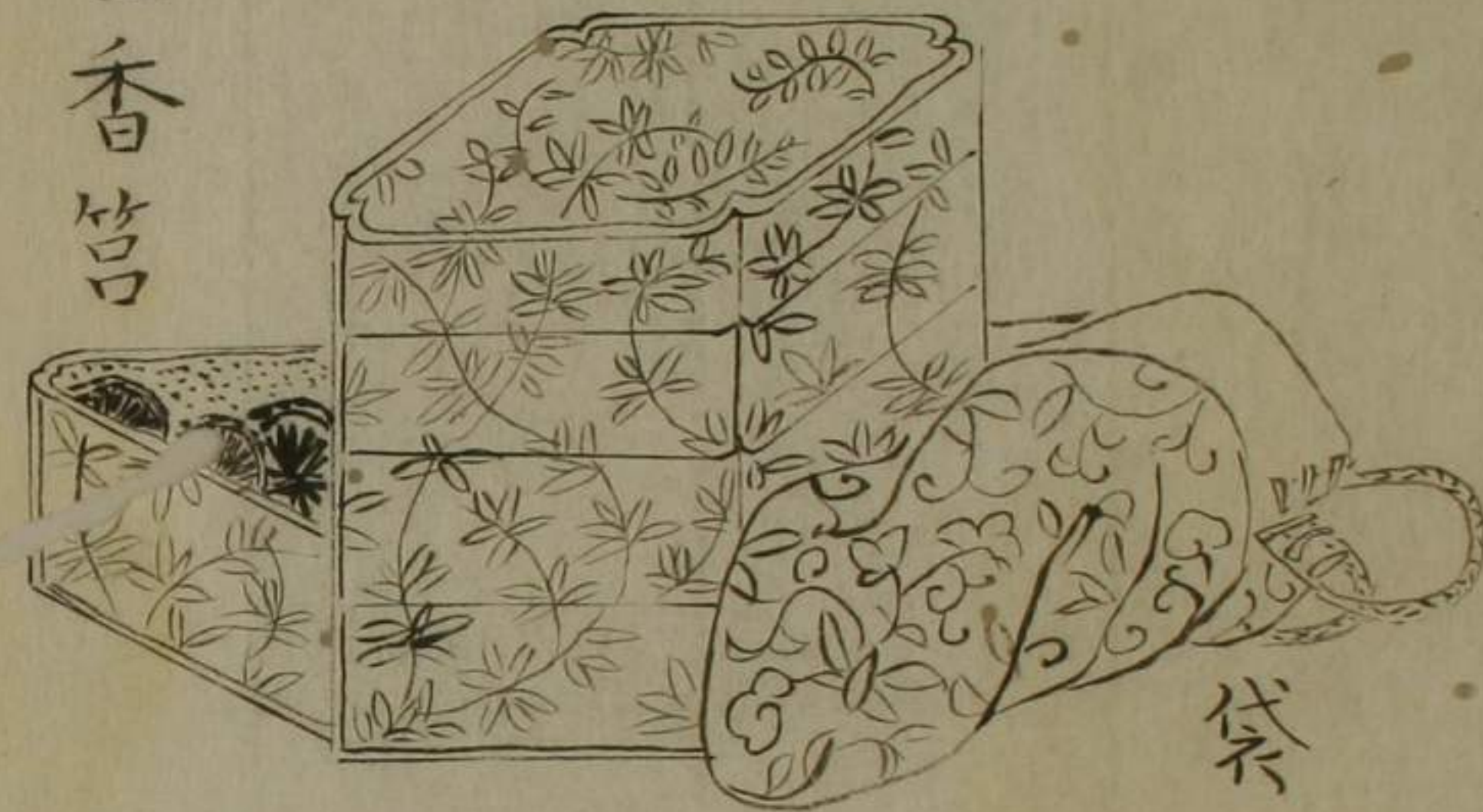


琅葉





重香筥



此圖古盃之模
古記小出今
一吊一説あり畧
之

火取



競馬香盤

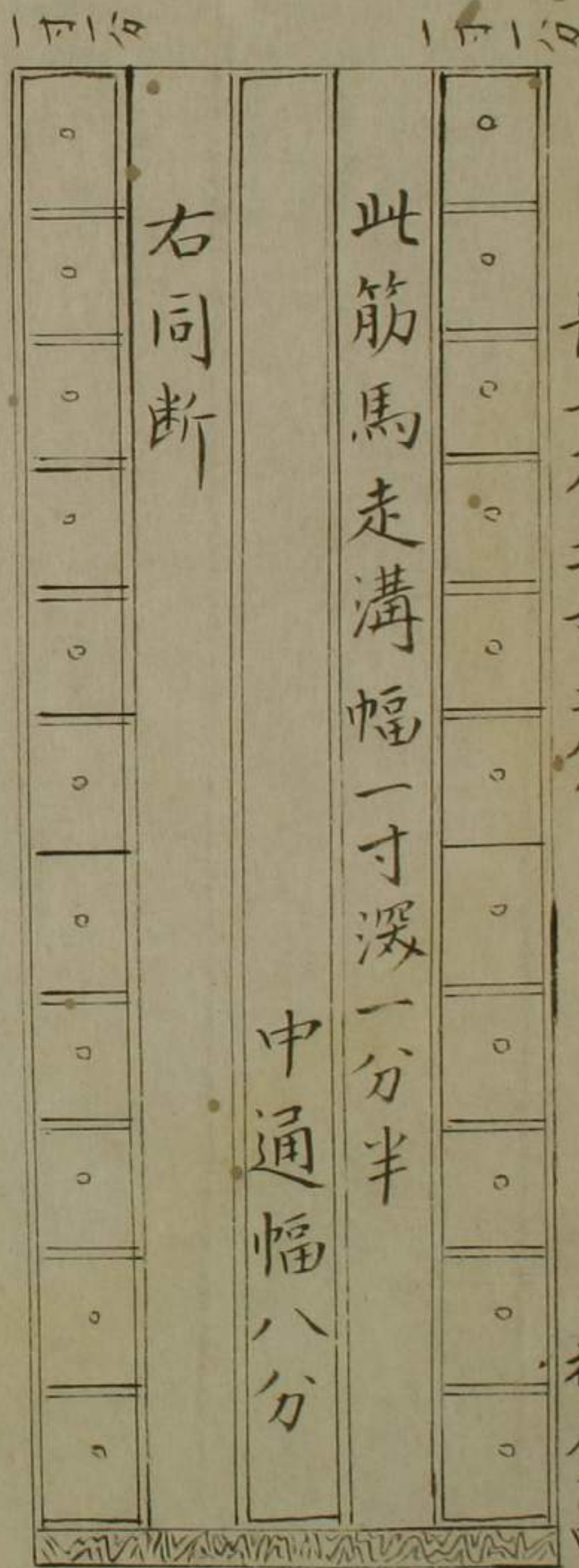
長一尺二寸二分

板厚四分

此筋馬走溝幅一寸深一分半

中通幅八分

右同断



右の盤二面造組

競馬香人形馬

赤方



黒方



勝負木

青鶏冠木

三寸二分

二寸五分



矢數香盤

長一尺六寸四分

板厚四分

一尺五分

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

六間金粉書

五間銀粉書

五間朱漆書

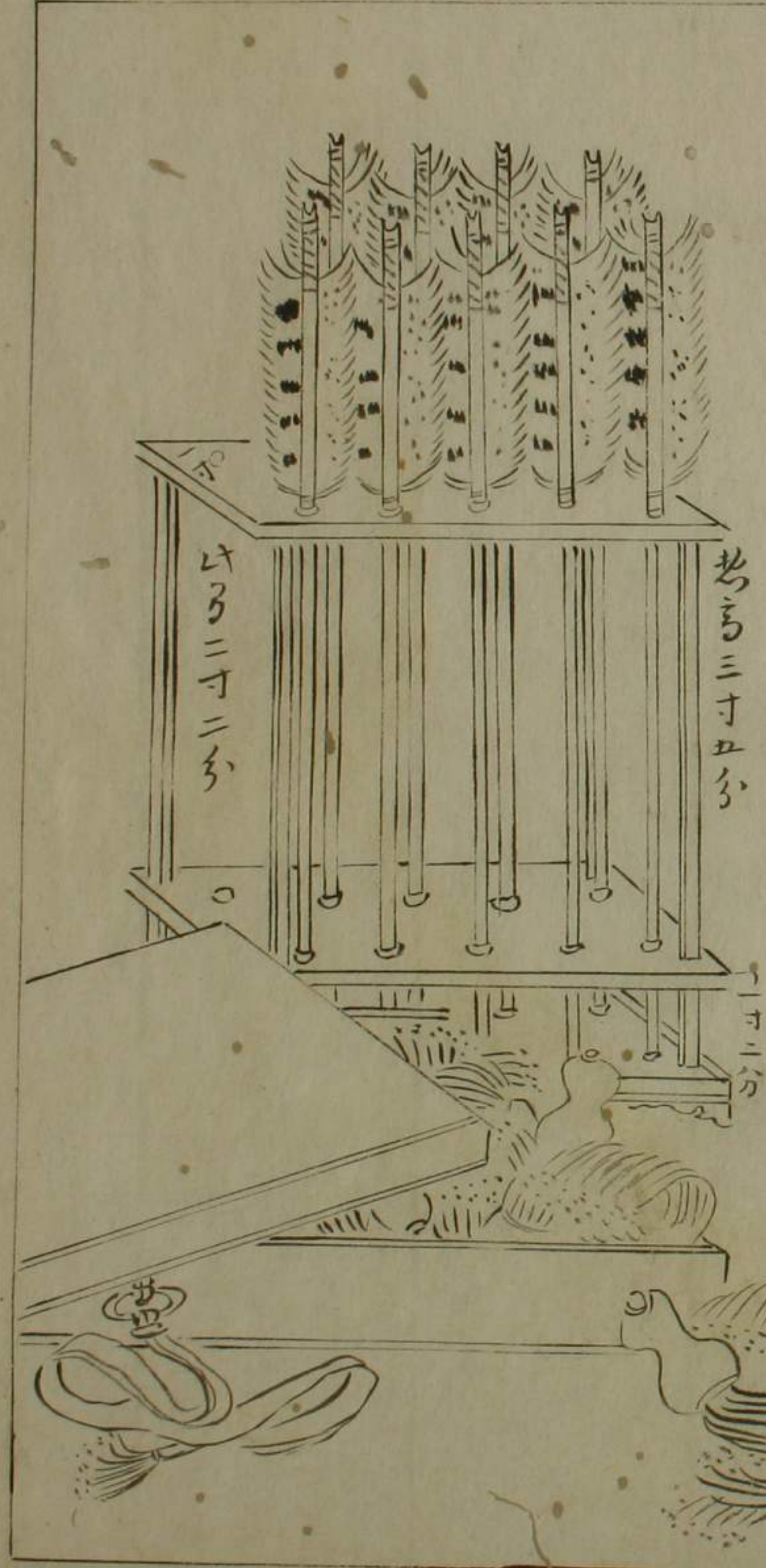
箭數香箭十本并箭臺

金麾十銀麾十

矢長五寸五分

末長六寸五分

羽中一寸二分



名所香盤

長一尺二寸五分



四板厚

六分高

名所香花紅葉

芳野方
櫻五本



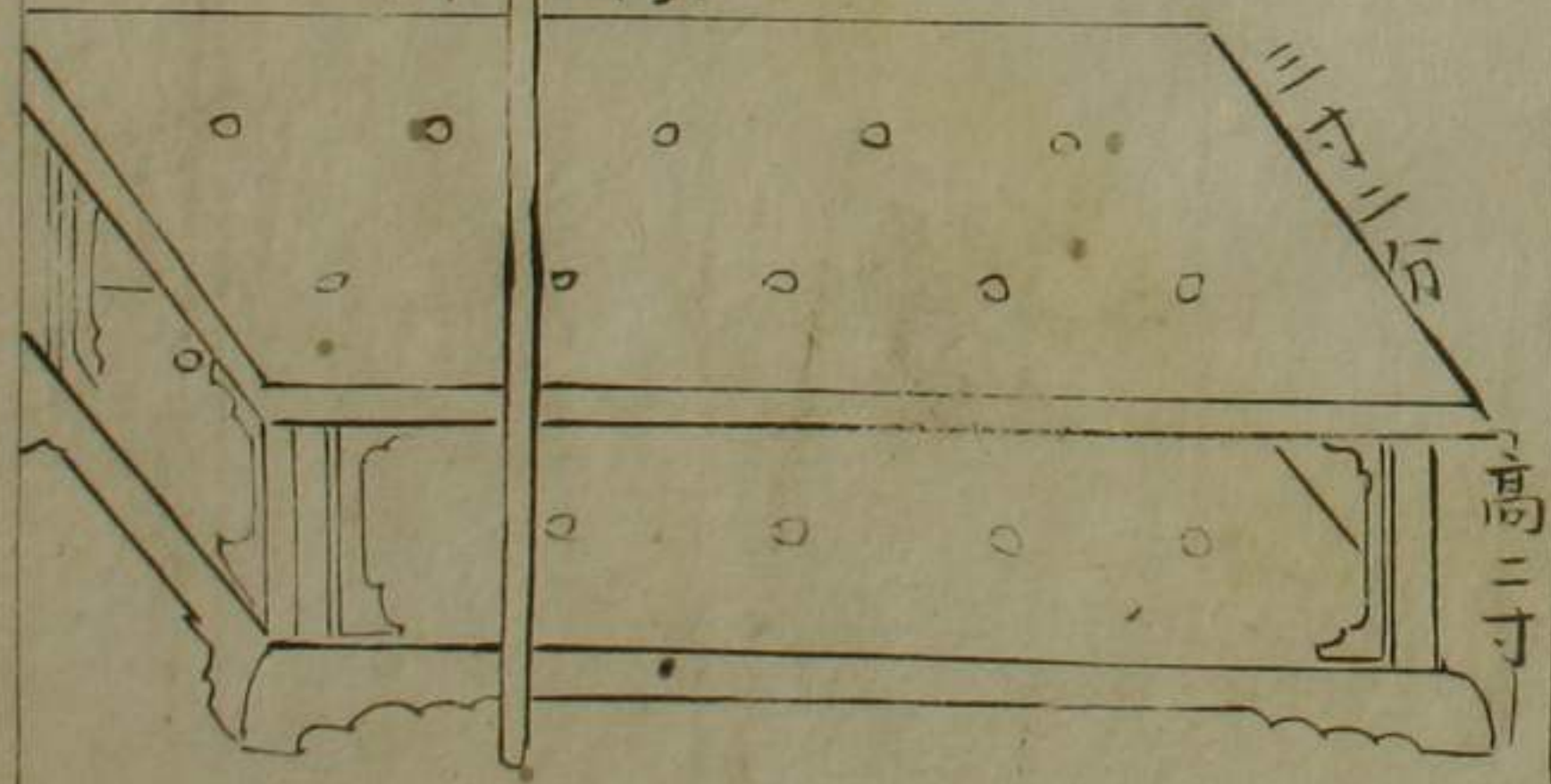
三寸三分

惣長五寸五分

龍田方
紅葉五本



六寸九分



高二寸



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



人
人
人
人
人



 <p>あまのり</p> 	<p>竹河</p>  	<p>ふらり</p>  
 <p>さつし</p> 	<p>あし</p>  	<p>あふ宮</p>  
 <p>あまのり</p> 	<p>推り</p>  	<p>紅毒</p>  

 <p>ひま</p> 	<p>わさ</p>  	<p>梅枝</p>  
 <p>夕霧</p> 	<p>あし</p>  	<p>あまのり</p>  
 <p>あまのり</p> 	<p>あまのり</p>  	<p>あまのり</p>  



一十種香箱の通ふ様は此標有る一或二重或三
 重黒塗漆に前縁は源氏花鳥を繪のわて書
 又古代乃身には角赤かともるものも今物は金泥
 赤廻り分玉瑜筋の細工をえり袋は漢和の織物
 長徳のうらぬりゆりき紙付のもの上は十種乃香
 包下に香爐札も二箇打札を小刀をこ入れり
 一香爐一對香籠を鶴金襴子漆付等形ありあふ
 ありし好よふかといふと一重はよも二足ありは秋職
 寸香籠きんころいり
 一帯は蓋袋紙用いり

一香盤漆物前縁或ハ青貝唐木の類好ム者不

ヤシトモ堆朱堆紅沉金彫の類古ナリモ香

合香盤の形ハハシトモハシトモハハシトモハハシトモ

一香若火若立金物すハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一香若唐木ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

火若銀ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一也ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一外色ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系拾ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一連ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一珮系入堆ハハシトモハハシトモハハシトモハハシトモ

一 堂書台堆朱墨具齊玲瓏也古風之と傳ふ
ゆより下切炭出圖をいへり

一 符拾二枚符拾合百二十枚あり小く入拾こゝに紙不裁

入る事圖のこゝ但符れもとして六四事子難の記
又合書敷をもわくうゝの文字あり一符は二枚三枚三

二三枚の枚を二枚と四枚と五枚と六枚と七枚と八枚と九枚と十枚と十一枚と十二枚と十三枚と十四枚と十五枚と十六枚と十七枚と十八枚と十九枚と二十枚と

紫檀椀たんざん椀木玉材蘊芳等此のたもとて造り得
ハ金粉符を如く又象牙油竹白竹を造り書と
漢の符をいへり心はさうに似

一 符筒符筒木木物木他は符筒又漢物筒形ハ
形も上上札入の穴をあな符筒のうらまはさうに
一 細い筒をいへり

一 符を染拾枚級級多多符筒合少少子又ハ成紙の敷
うらみかろく銀箔紙成なり一より十まであり

一 紙紫堂紙紫堂厚木厚木材材是を無なし一限紫とし紫

一 菊梅牡丹紅紫をしめても青負又また赤がが分をも
はるはる敷ハ十二十二ありあり一紙の限甚はくく或ハ或ハ四四

又、小川六河あると
小室花月の香は月

小室花月の香は月 珮香様つらひ

折て用は結構とあり

一、大取香櫃本として造用合まると、配他まると、

古風ゆうり
上の意のか合のまを付くこと大取香を造用わり今乃香古画まを記古記は

一、香色は香ふりして各かつる國はあり、十短香の

包あり
小包折形におまを移して造り、紙を色不香を香毎に付して少つ其心ありおにきく香が

小包折形は、何香めして、造り香ると、香緒ま

合紙又と香裏折紙等何とといふ、ま、は、

香、は、香、心、を、お、り、

香、は、香、心、を、お、り、月、は、梅、月、名、を、

古北立回ふの系派は香ふる山寺の香をり、

一、記録紙奉書相原引合等あり、卦あり、古法は、

く、是、造、代、の、習、り、執、字、初、心、の、香、は、月、も、香、也、又、香、折、小、卦、札、の、致、し、を、ま、た、香、を、お、り、を、何、也、の、香、と、通、用、也、

一、名系紙は、香書、も、相原、も、香、切、等、も、

八、の、香、は、紙、香、ふ、り、は、折、上、紙、少、折、る、と、

香、は、香、心、を、お、り、

紙、香、は、香、心、を、お、り、

一、鏡る者の香二面、法、國、ま、た、華、楠、木、紙、樹、葉、等、白

檀、豆、校、等、箱、之、角、入、金、粉、が、こ、め、紙、

但、精、つ、い、て、折、る、香、心、を、

一頭人形二馬二疋 赤方人形冠縁古刀袴赤地の半
 切髻鞭多程こころあさかこりあさか馬ハ栗毛連
 襪足毛あさか紅の厚房をうろし膝より母障
 馬子ハ馬絹襟あさかのかわらと緋をうろしあさかの厚房成
 為ハ形も塔本より彩色紙目也近來本
地を遠くとも厚分れ細とさく 昔より外装入
 一両勝負本ハ青鶴冠本多程ハ厚板 ころ葉のあさか
 やふしと柄を唐本馬袴袴子本めあさか
 一紫の教香ハ唐本教馬袴袴子本めあさか
 袴あさか袴子本めあさか金銀袴朱漆書分分

一 袴 馬 袴
 一 同前袴本柄ハ白山馬袴袴子本めあさか
 足まじり 袴ハ唐本袴袴子本めあさか入紫の書
 馬のころとさく馬又紫厚房馬のころとさく馬
 外装入馬
 一 同金銀の魔より金糸銀糸光るハ紙目根付の靴
 単ハ漆家の子ハ又袴袴子本何れも昔より外装入
又袴ハ金糸
 一 名所香の髻本ハ紫乃と何れと卦ハ角ハ金
 粉朱とと馬袴と何れと教記教と何れと

まゝと云々

又方教の誓のうふる家の
卦と云々

一 同花紅葉の様をか 紅葉をか 白紙の層箔又層板

又紙をよばる花の白紙一をかり紅葉をかよばる

多角の形つ柄の唐紙何れをも角入 柄は紅葉のうらと
申すも無あり

一 源氏香の圖一冊打て玉鑑のとくらひ造る

香のうら葉も朱もも緋ももあふやう

下に巻くの心の端をうら肩ふ巻の名紙く下れ

端の香ふかて次入事よ何れも巻のうら見合

ゆゑ又縁注目と書りてうら心よ

香のうら葉牙かて押し形よして朱もかかめ肉と云々
あり右香のうら柄をかしの位紙ありてうら

上乗香の具古代は格式かてうら板は首尾あり

ありては香ふか 元和の誓朝よりとけりてあり

香のうら葉をうら香の事香道をこれ位紙等わ

志跡宗信宗温乃古法は古世乃香ふか

先はうらめてより世は流るぬ更は私のとけり

おのうけ外競る葉教名を香の形は香

香のうら葉をうら香のうら葉のうら葉

先と云々 是を又香所をうら定はるる右道

具の外香臺志野棚香別室視香屏風等の
 諸所定まる法有とわらふ事多端なるを極免法
 法よと仰わらす今十種番より要具一通と云
 しゆら志紙又志紙のあふわらすとて有きい
 道よあら入波且志の境を極ぞ極うらん
 此の終るをわらふ時のあよりとて有るは
 きののこ

空華菴忍鑑子述



文久元年自二月十日
東都御所より求之

備前
〇兆

〇兆



